

演奏に  
役立つ

# One Point Lesson

# TROMBONE

トロンボーン

山下浩生 やました・ひろお



- ◆出身 香川県立坂出高校、大阪教育大学・同専攻科
- ◆所属 宝塚歌劇オーケストラ、ジャパンプラスコレクション、アポロトロンボーンカルテット、大阪音楽大学、他
- ◆趣味 数独（ナンバープレース）、運転、麺類
- ◆血液型 O型
- ◆星座 おひつじ座
- ◆読者にひとこと 自分の音と向き合う時間を持ちましょう。
- ◆手紙の送り先 hiroyama shitabj@me.com

## きれいな音でタンギングをしよう!!

みなさんこんにちは。この冬は本当に寒かったですね。宝塚でも最低気温が零度前後といった日もあり、「こんなに寒いのはないよなぁ……」と話していたら、最近宝塚歌劇オーケストラに加わった北海道出身のトランペッター G 君に「僕の故郷は零下20℃くらいですよ」とサラッとと言われてしまいました。日本は広いですね。

さて、今回はタンギングのレッスンです。私は今まで、「できるだけタンギングは使わずに吹いてください」とくり返し書いてきました。その理由は、発音＝タンギングと固定化して考えてしまっている生徒さんが多いことと、タンギングに頼りすぎてしまい正しい発音やきれいなアタックで吹けない例をよく見かけるからです。また、息をタイミングよく入れられなくて「むわー」みたいに発音してしまうのを直そうと、タンギングがどんどんきつくなっていく例もあります。

確かにタンギングを使えば、簡単に発音できるような気がしますが、アタックもつけ放題です。でも、よい音をきれいな発音で出すためには、タンギングに頼りきってしまっている吹き方を改めるのが一番の近道なのです。息の流れを妨げず、音を区切る役割を息と舌が分担するようなイメージで練習しましょう。息で音を区切るという

ことは、口笛で曲を吹くような感じだと思っていただいて構いません（口の形のことはありませんよ）。

今回練習する上で注意していただきたいことは、以下の6つのことです。

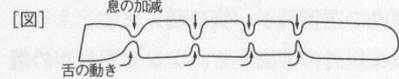
1. ブレスから吹き終わりまで息は止まらずに（音符の間も息は止めません）。
2. ゆるいタンギングを心がける（図参照）。
3. 息で音を区切るとは？ を考えながら吹く。
4. 上半身のリラックス（右手は硬くならず、かつ、素早いスライディングを心がける）。
5. すぐにうまく吹けなくても気にしない

（だんだんできるようになる）。

6. メトロノームを必ず使用する（ゆっくりにからだんだん速く）。

【譜例1～3】は同じ音での練習です。四分音符の練習から、音が短く途切れることのないように注意しましょう。八分音符、十六分音符【各譜例のa b】になると途切れやすくなりますので、辛抱強い練習が大切です。

【譜例4～6】は、タンギングの練習としては同じことの繰り返しですが、スライドの動きが加わっても【譜例1～3】と同じように途切れずに吹くことをめざしてください。



<p>【譜例1】</p>	<p>【譜例2】</p>	<p>【譜例3】</p>
<p>【譜例1-a】</p>	<p>【譜例2-a】</p>	<p>【譜例3-a】</p>
<p>【譜例1-b】</p>	<p>【譜例2-b】</p>	<p>【譜例3-b】</p>
<p>【譜例4】</p>	<p>【譜例5】</p>	<p>【譜例6】</p>
<p>【譜例4-a】</p>	<p>【譜例5-a】</p>	<p>【譜例6-a】</p>